

「大阪湾再生」水質一斉調査について

～ 大阪湾の健康状況を知るために、8月5日 各機関が一斉に水質調査を行います ～

水質汚濁が心配される大阪湾で、一年に一回の健康診断を行います。

大阪湾の健康状況を確認するため、大阪湾再生推進会議※¹では国・自治体・研究機関などとの連携をはかり、「大阪湾再生」水質一斉調査として、一年の内で最も水質汚濁が懸念される夏場の一日を定め、一斉に水質調査を実施しています。

これまで、大阪湾の水質調査は、各機関が各々の目的に応じて個別に実施しており、云わば人間ドックのように頭の先からつま先まで、湾全体の健康状況まで確認することが難しい状況でした。

この一斉調査により、海の生き物の生息に影響を及ぼす貧酸素水塊※²の発生分布など貴重なデータの取得を通じて、大阪湾の汚濁メカニズムの解明に向けて努めてまいりたいと考えています。

今回で6回目となる一斉調査では、関係行政機関はもとより、臨海部における企業や海辺で活動を行っている市民団体ともさらに協働をすすめるなど、より多様な主体との連携を図り実施いたします。



(※1)大阪湾再生推進会議：
内閣官房地域活性化統合事務局、国土交通省、農林水産省、経済産業省、環境省、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都市、大阪市、堺市、神戸市、(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構で構成。
平成15年7月発足。

(※2) 貧酸素水塊：
海水中の酸素がほとんどなく魚介類が生息できない水域。夏場の大阪湾奥部を中心に頻繁に確認されている。

1. 一斉調査実施日 平成21年 8月5日(水) (一部3,4,6,7,8,11,12,19日実施)

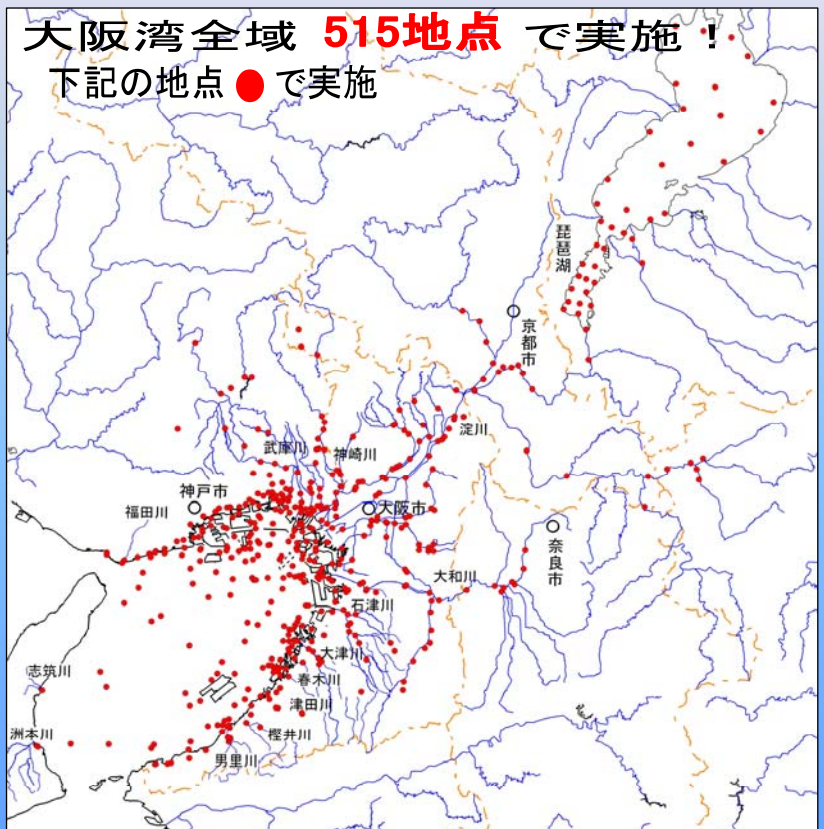
2. 一斉調査を行う地点

海上 217地点

- ・国土交通省近畿地方整備局(港湾空港部) 12地点
- ・第五管区海上保安本部 19地点
- ・大阪府環境農林水産総合研究所 35地点
- ・大阪府港湾局 4地点
- ・大阪府南部流域下水道事務所 16地点
- ・大阪市環境局 6地点
- ・大阪市港湾局 6地点
- ・堺市 4地点
- ・兵庫県農政環境部環境管理局 13地点
- ・兵庫県土木局港湾課 9地点
- ・神戸市 22地点
- ・西宮市 6地点
- ・尼崎市 3地点
- ・大阪湾広域臨海環境整備センター 19地点
- ・関西国際空港株式会社 8地点
- ・阪神高速道路株式会社 1地点
- ・関西電力株式会社 1地点
- ・大阪ガス株式会社 1地点
- ・新日本製鐵株式会社 1地点
- ・JFEスチール株式会社 1地点
- ・東洋建設株式会社 1地点
- ・日本ミクニヤ株式会社 4地点
- ・大阪市立大学 6地点
- ・大阪府立大学 1地点
- ・神戸大学 2地点
- ・独立行政法人国立環境研究所 6地点
- ・五洋建設株式会社 1地点
- ・いであ株式会社 3地点
- ・環境システム株式会社 1地点
- ・株式会社環境総合テクノス 1地点
- ・JFEアレック株式会社 4地点

河川 298地点

- ・国土交通省近畿地方整備局(河川部) 97地点
- ・大阪府、兵庫県及び関係市 201地点



3. 共通測定項目

- ・「大阪湾再生行動計画」では「魚庭(なにわ)の海」の復活を目標に掲げており、その実現に向けて生物生息指標であるDO(溶存酸素量)、塩分、水温を海域の共通測定項目に設定。
- ・大阪湾に流入する河川では、陸域などから流入する汚濁負荷の指標であるCOD、窒素、りんなどを測定。
- ・第五管区海上保安本部では、流れの調査とともに、塩分、水温、及び透明度などを測定。

4. 期待される効果

- ・大阪湾全体の環境負荷の全体像の把握(貧酸素水塊の発生分布など)
- ・大阪湾の汚濁メカニズムの解明と藻場や干潟などの改善方策の効果的な対策手法の検討
- ・陸域からの流入負荷など、陸域と海域の関係の解明
- ・国、自治体、研究機関、企業、NPOによる環境モニタリングネットワークの構築等



↑ 大阪湾再生のイメージ